

DSO参加機関の活動のご紹介

◆森林総合研究所◆ 「季刊森林総研」に女性研究者特集を掲載

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/kikan/index.html>

このたび、(独)森林総合研究所では、広報誌「季刊森林総研」第20号において「女性を活かして木材利用促進をめざす」を特集し、各分野の女性研究者が取り組んでいる研究を紹介しています。「季刊森林総研」第20号のpdfファイルは上記サイトからダウンロードできます。是非ご覧ください。



セミナー開催報告

◆産業技術総合研究所◆ ロールモデルとの懇談会「育児と研究生活の両立」を開催

http://unit.aist.go.jp/diversity/ja/event/130314_dso_seminar.html

ロールモデルとの懇談会は、産総研ダイバーシティ推進室が女性研究者支援の一環として行っているものです。多方面で活躍されている女性研究者ロールモデル(規範となる先輩研究者)の方々を毎回お招きして、ワーク・ライフ・バランスの取り方、仕事や生活の成功例・失敗例、キャリアパス構築、困ったこと・よかったことといった話題を提供して頂く懇談会です。

2013年3月14日(木)に産総研共用講堂において、平成24年度第2回懇談会「育児と研究生活の両立」を開催しました。今回はDSO参加機関の産総研と農研機構においてご活躍されている二人の女性研究者(佐藤縁さん、岩浦里愛さん)に「外部研究資金を獲得しながら着実に研究生活を進めると共に、育児を含めた家庭生活と両立されているロールモデルに、ワーク・ライフ・バランスの取り方、外部研究資金を使用した研究生活など、これまでの歩みについて話していただく」という趣旨でご自由に語っていただきました。当日は16名の方にご参加いただきました。



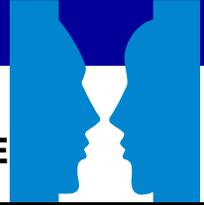
お二人からは、これまでのキャリア形成、育児と研究の両立方法(時間だけでなく心も)、外部研究資金の獲得のコツなど、率直なお話をしていただきました。終了後のアンケートからは「家庭のお母さん目線の話が豊富でとても面白かった。」「二人ともにとっても元気なのが素晴らしい。失敗したことも素直に認めることが元気の秘訣。」など好意的な感想が多く寄せられました。

女性研究者の活躍

第6回「資生堂 女性研究者サイエンスグラント」10名の受賞者決定

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130308/prl13030816390107-n1.htm>

資生堂は、自然科学分野において指導的役割を担う女性研究者の育成を目的とした第6回「資生堂 女性研究者サイエンスグラント」の受賞者10名を選出、3月8日(金)「国際女性の日」にちなみ、発表しました。DSO参加機関からは、上智大学 鈴木由美子さん、神戸大学 西村珠子さん、産総研 細川千絵さんが受賞されました。資生堂サイエンスグラントは、優秀な女性研究者の研究活動を支援することにより、指導的女性研究者の育成に貢献を目指すもので、受賞者には100万円が贈られます。



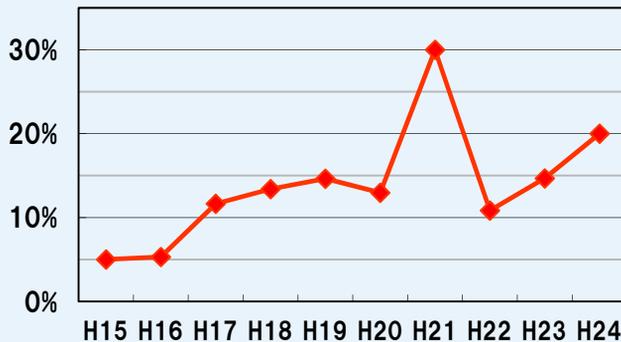
産業技術総合研究所におけるダイバーシティへの取組

産業技術総合研究所は第三期中期計画(平成22~26年度)の【II, 3, (2)女性や外国人を含む優秀かつ多様な人材の確保及び育成】の項目において、「男女や国籍などの別にかかわらず個人の能力を存分に発揮できる環境の実現を目指し、共同参画を推進する。研究系の全採用者に占める女性の比率について 第3期中期目標期間終了時まで第2期実績を上回る15%以上を確保し、更なる向上を目指す。また、外国人研究者の採用については、研究セキュリティをはじめコンプライアンスの観点に留意しつつ、積極的な採用に努める。」と掲げている。そのため「第3期中期計画におけるダイバーシティの推進策」(平成22年9月策定)を定め、ダイバーシティにかかる6項目のアクションプランを推進している。

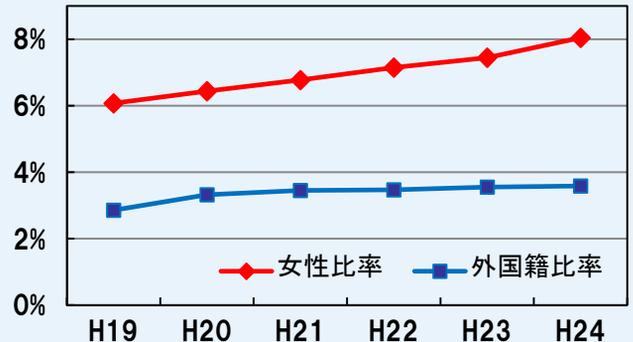
第3期中期目標期間のダイバーシティにかかるアクションプラン

1. 多様性活用(ダイバーシティ)意識の啓発・浸透
2. 女性研究者及び外国人研究者の積極的な採用・活用
 - (1)女性研究者数の増加
 - (2)外国人研究者の採用・活用
3. キャリア形成における共同参画のための方策
4. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)のための支援
 - (1)育児・介護支援制度の充実と活用促進
 - (2)時間外労働縮減や年次有給休暇取得の促進
5. 国、自治体及び他の研究教育機関等との連携
6. 多様性活用(ダイバーシティ)の総合推進

これらの活動に取り組んだ結果、女性研究者の採用比率は第3期中期計画における3年間(平成22~24年度)を通算すると、15.1%と現時点で採用目標値を達成している。その結果、全研究職員に対する女性比率は平成24年4月1日時点で8.0%と平成13年度の4.6%から大きく上昇しました。また、外国人研究者の採用目標は設定していないが、平成24年4月1日時点で3.6%と平成13年度の1.8%からは倍増している。ただし、大学院博士課程の留学生比率を考えると、女性研究者の採用比率の更なる向上のためにも、今後は外国籍の方を更に積極的に採用に努める必要があります。産総研では、ダイバーシティ推進委員会において外国人研究者の採用・活用支援のための支援策の検討を行いました。今後、随時実施していく予定です。



産総研における女性研究者の採用比率



産総研における女性および外国籍研究者比率

産総研人事DB(4月1日付け)を使用してダイバーシティ推進室で算出した数値を使用

ダイバーシティ・サポート・オフィスのご案内

男女共同参画の取り組みを進めている研究教育19機関では、ダイバーシティ・サポート・オフィス(DSO)を組織し、ワークライフバランス支援や意欲触発支援のノウハウを蓄積・発信・共有を進めております。

*DSOメンバー: 産業技術総合研究所、森林総合研究所、物質・材料研究機構、農業環境技術研究所、千葉大学、筑波大学、神戸大学、農業・食品産業技術総合研究機構、土木研究所、国立環境研究所、国際農林水産業研究センター、農業生物資源研究所、防災科学技術研究所、高エネルギー加速器研究機構、理化学研究所、宮崎大学、上智学院、弘前大学、岡山大学(参加順)

「DSO News Letter」は各DSO参加機関へ、それぞれで働く方へ、また広く外部に向けて情報発信するツールとして月1回発行しております。当Letterの紹介も歓迎いたします。バックナンバーはDSOホームページにてご覧いただけます。